

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第95号

ダイヤ財団設立30周年記念シンポジウム 参加報告

「認知症を正しく理解し、ストップ介護離職」

松下 恵造

9月6日に開催された標記シンポジウムに小島かながわ子ども教室理事長の代理で参加したので、報告いたします。ダイヤ財団では、1994年のダイヤ財団設立1周年記念講演会を皮切りに、今回を含め39回のシンポジウムやセミナーを開催されているとのことです。今回のシンポジウムはビジョンセンター東京・京橋にて開催され、参加者は約80名でした。

財団・佐藤一三常務理事の開会挨拶では「仕事をしながら介護をしている人の数は、2022年に365万人で認知症を介護している人の6割となっています。また介護のために離職する人が9~10万人と高水準で推移しています。このシンポジウムが皆さまの仕事や生活に少しでも役に立てば幸いです。」とのお話がありました。

第1部 基調講演「認知症の正しい理解のために」

上野秀樹氏 千葉大学医学部附属病院患者支援部 特任准教授、精神科医

誰でも高齢者になれば認知症に掛かる可能性があり、支援が必要となる。認知症支援のポイントは、①医療・介護のできることを理解し、可能な限り支援を受けること、②一人だけ、家族だけで抱え込まないこと。③希望を見いだせるような情報提供を行うこと。認知症の主な原因として、①抑うつ状態、②脳血管障害、③正常圧水頭症、④アルツハイマー病 等を説明された後、アルツハイマー型認知症の原因と進行、抗認知症薬 についても説明がありました。

第2部 パネルディスカッション「ストップ介護離職4」

パネリストは下記1) 2) 3) 4) の方々で、

コーディネーターは、佐々木 晶世氏：ダイヤ高齢社会研究財団 研究部博士研究員。

1) 上野 秀樹氏 (認知症や訪問診療の専門家として)

2) 江崎 光希氏 (企業の人事担当者として)

キリンホールディングス株式会社 人材戦略部 企画・組織開発担当

・キリンでは、介護しながら仕事ができる環境 くり=仕事と介護の両立支援(支援金)を行っている。

・自己都合退職者のうち介護理由での退職者の割合は約4%=1~2名(2022年)。

- ・全社員のうち介護をしている社員の割合は2%。

3) 渡辺 健美氏 (仕事と介護の両立経験者として)

東京海上日動火災保険株式会社 総務部 総務サービスグループリーダー

- ・ご自身のお父様 (84才) がアルツハイマー型認知症になられた経過を紹介された。2013年：兆候が見られた。
2015年：病院でアルツハス利用開始。
2021年：介護施設に入所。
- ・介護と仕事の両立の上で助けになったこと
①家族 ②地域 ③介護サービス ④会社 (職場の理解と協力、介護支援プログラム)

4) 椿本 哲也氏 (高齢の親を持つ企業の中核社員として)

明治安田生命保険相互会社 コンプライアンス統括部 (業務品質調査担当)
コンプライアンス特別調査役

- ・お母様が要介護になるまでの経緯を紹介された。お母様 (79才) は、2015年：外出しなくなる、2018年：歩行が徐々に困難になる、2019年：要支援2、2022年：要介護3。お父様 (82才) は健全だが、老々介護の状態。
- ・明治安田生命における仕事と介護の両立を支援する制度
①家族の介護のための休暇
②介護のための出勤時間の繰り上げ、繰り下げ
③介護のための短時間勤務制度
④介護ダイヤル。

パネリストの事例紹介の後には残り時間が少なく、残念ながら「仕事と介護の両立」についての議論が十分に出来なかったが、基調講演では、認知症についての医学的知見や对人的支援の要点について知ることができました。また、パネリストが勤務される大手企業では「仕事と介護の両立を支援する制度」が充実されてきているように思われました。ただ、中小企業での支援制度はまだまだ不十分ではないかと懸念されます。

(编者注：このシンポジウムをオンラインで視聴 (2023年9月20日~2024年3月31日) できます。ダイヤ財団ホームページ (<https://dia.or.jp>) の申込フォームから申し込んでください)

かながわ子ども教室

松下 恵造

本年度の教室開催計画では、ウイズ・コロナの考え方が継続していること、および教室開催先と共に感染防止に努めることにより、昨年度実績+アルファの年間118~125回の開催を目標としました。これまでの教室開催実績は、5月に1回、6月に10回、7月に17回、8月に20回で合計48回です。昨年度と同様に7月と8月に集中しました。今後の予定は、9月~12月に32回、1月~3月に15回で合計47回です。現時点では実績・予定の合計で95回の見込みです。

今後、目途とした回数まで増えることを願っています。

新規教室「プログラミング2」が7月12日にセンターヒルズ（コミハ）にて開催され、続いて8月5日に山内コミハ、8月10日に青葉台コミハ、8月26日に鴨志田コミハにて開催され、順調に立ち上がりました。「EdBlocks」ソフトで「EdRobot」車型ロボットを動かすプログラミング学習であるが、車型ロボットが「動く」ことに生徒たちは面白さを感じているようです。

「かながわ子ども教室」の会員数は、8月24日に市川克美さん（S33年生れ）が入会されましたので37名になります。久々に増員に転じたことは嬉しく思いますが、今年度の入会人数の目標を5名にしていますので、まだまだ努力が必要です。今回改訂しました「勧誘チラシ」も大いに活用いただき、皆様の積極的なご協力をよろしくお願い致します。

当教室のねんりんピック・協賛イベントへの参加は2008年の鹿児島大会から始まり、北海道、石川、熊本、宮城、高知、栃木、山口、長崎、秋田、富山、2019年の和歌山大会まで毎年連続して参加してきました。2021年、2022年の岐阜大会はコロナで連続中止されましたが、2022年の地元神奈川大会には続けて参加しました。しかし、会員の高齢化、および2015年の山口大会から共催参加されてきた「きらめきライフ多摩」が本年度で教室活動を縮小されることから、ミニマム3教科の開催が困難になったため、本年度から参加を中止することとしました。これまでご支援をいただいた長寿社会開発センター、日本財団、福祉医療機構、ダイヤ高齢社会研究財団の皆様には厚くお礼を申し上げます。